

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 53 2017年3月25日

目 次

| | | | |
|---------------------|---|----------------|----|
| 平成29年度総会案内 | 1 | 小児言語委員会情報交換会報告 | 10 |
| 理事会より | 2 | 施設紹介 | 12 |
| 学術局より | 3 | 臨床こぼれ話 | 13 |
| 生涯学習プログラム報告 | 8 | 各委員会・作業部会から | 14 |
| 認知症専門職研修会報告 | 9 | 職能部アンケート結果報告 | 18 |
| 千葉POS介護予防専門職育成研修会報告 | 9 | 事務局より | 20 |
| | | 理事会・委員会等議事録 | 21 |

◇ 平成29年度総会案内 ◇

第6回総会のお知らせ

一般社団法人千葉県言語聴覚士会第6回総会を5月28日（日）に開催いたします。法人格を取得して6年目となります。職能団体として、さまざまな社会的ニーズに対応していくことが必要となります。総会は今後の方針を決める重要な場です。お忙しいかと思いますが、会員の皆様の出席を賜り、これから活動に活かしていきたいと存じます。ぜひ、ご出席くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、総会議案書と出欠票・委任状は4月下旬に発送予定です。当日欠席される方は委任状の提出をお願い致します。

総会後には第1回研修会を行います。皆様お誘いあわせの上、ご参加ください。

日時：平成29年5月28日（日） 13:00～14:00

場所：千葉市民会館 特別会議室2



◇ 理事会より ◇

＊＊秋期都道府県士会会长会議・関東圏都県言語聴覚士会会議報告＊＊

副会長 岩本 明子

平成28年10月29日午後、日本言語聴覚士協会による平成28年度秋期都道府県士会会长会議が開催されました。また、同日の午前中、関東圏のS T士会の会長副会長会議も行われ、関東圏都県言語聴覚士会が発足しましたので、報告いたします。

協会の会長会議は、協会からの伝達が中心で、①協会による生涯学習プログラム基礎講座講師養成研修会は今年度で終了となり、来年度以降は、臨床経験10年以上、専門プログラム修了者を主たる要件に、県士会による講師養成に移行すること、②失語症者向け意思疎通支援者養成事業について、平成30年度に全国的に開始することを目標に、厚生労働省はカリキュラム検討会にて養成研修テキスト案を検討中であり、来年度は国リハ開催による講師養成研修会が予定されていること、③熊本地震、岩手・北海道水害、鳥取地震について、災害リハの対応と災害関連の講習会の案内、④協会の定款について、次の総会で、事業計画と予算案の承認を社員総会の承認事項からはずす提案がなされること、⑤介護保険施設における言語聴覚士の業務概要調査および平成27年介護報酬改定による影響調査の報告、⑥地域リハ活動支援事業推進に向けた人材育成事業に関して、各県の研修会実施状況や課題（受講費の設定、講師の確保）の情報提供に加え、今後地域ケア会議に関するガイドラインの作成や、人材派遣等の運営方法の共有、言語聴覚士が関わる介護予防事業や地域ケア会議の事例の蓄積などの取り組みが予定されていることなどの話がありました。

関東圏のS T士会の会長副会長会議は、東京都言語聴覚士会の呼びかけで初めて開催され、東京、神奈川、埼玉、群馬、栃木、茨城、山梨、千葉の8つの都県士会が参加しました。名称を「関東圏都県言語聴覚士会」とし、まずは情報交換を会の目的をとすること、①そのために会長副会長間のメーリングリストを作成する、②研修会の相互乗り入れを検討し、学術集会の合同開催も視野に入る、③災害時の協力体制を構築していくこと、などを協議しました。

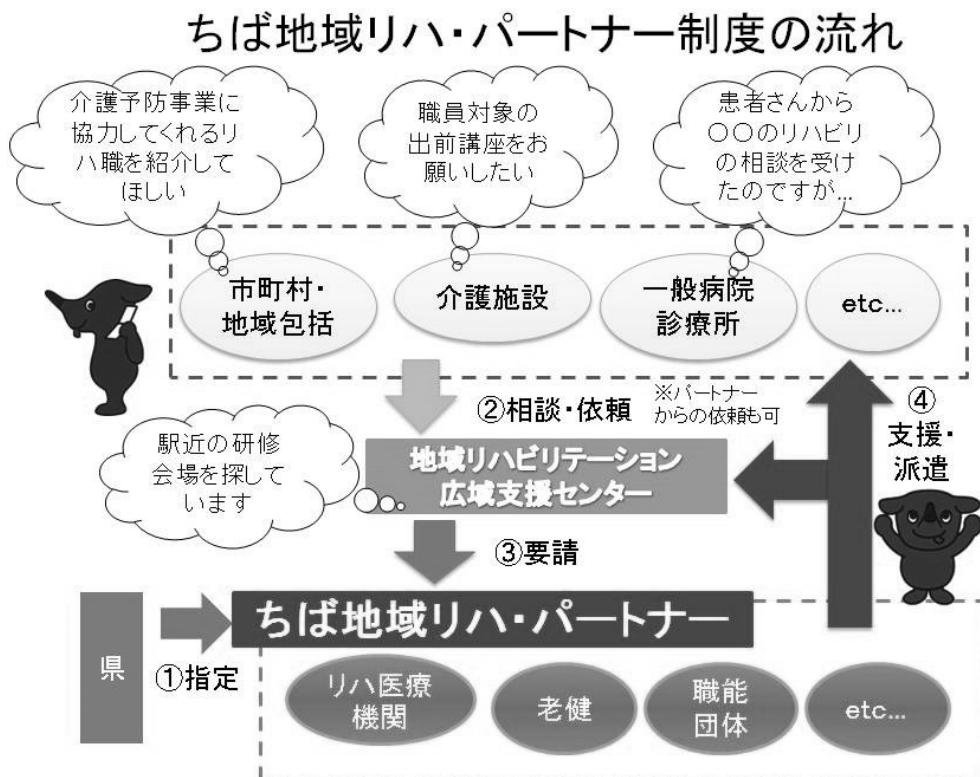
協会は「地域の実情に合わせて」と、様々な活動において県士会に実動を求めています。地域包括ケアシステムの構築や卒後研修のあり方、災害リハの体制整備など、当会として主体的に取り組んでいく必要があります。理念として大枠で示されたものを、県内の状況を把握したうえで、着地させ展開していくのは我々なのです。来年度の活動に向けて、委員などへのお誘いがあった折には、ぜひYESの返事をお願いします。皆で、アイディアを出し合い汗を流して、ポジティブに地域に根づいた活動をしていきましょう。

＊＊「ちば地域リハ・パートナー」制度が始まります！＊＊

千葉県には、地域リハビリテーション推進の拠点として、二次保健医療圏に1カ所「地域リハビリテーション広域支援センター」が指定され、市町村をはじめとした関係機関からの地域リハの相談対応、研修等を行っています。平成29年4月から、住民主体の介護予防の取り組み支援に携わるリハ専門職の派遣要請に応えるマンパワー充実を目的に、「ちば地域リハ・パートナー」制度が始まります。地域リハビリテーションの理念に十分な

理解を持ち、広域支援センターからの協力要請に応じる意思のある機関・団体（病院・施設、N P O、職能団体など）が応募できます。詳しくは、県のホームページをご覧ください
(<http://www.pref.chiba.lg.jp/kenzu/tiikiriha/patonabosyuu.html>)。

当会に派遣要請があった際には、昨年秋の「千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修」修了者の方にご相談させていただく場合があります。



出典：千葉県HP



◇ 学術局より ◇

学術局 酒井 譲

1. 平成29年度第1回研修会のお知らせ

今回は、講師に千葉市障害者福祉センターにご勤務されていた 塙 まゆり先生をお招きして「高齢者とのコミュニケーション方法、聞こえづらさへの対応～地域包括ケアに於けるS Tの役割～」をテーマにご講演いただきます。

また、講演会後には新入会員をお迎えし、懇親会を開催致します。日頃の臨床に関する情報交換はもちろん、皆様にとりまして楽しく有意義な時間になりますことを願っております。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘いあわせの上、ご参加ください。

*日時：平成29年5月28日（日） 14時15分～16時40分

*会場：千葉市民会館

* 内容

I. 講演 [14:15~15:45]

「高齢者とのコミュニケーション方法、聞こえづらさへの対応～地域包括ケアに於けるS Tの役割～」

講師：(元) 千葉市障害者福祉センター 言語聴覚士 塙 まゆり 先生

II. 懇親会 [15:50~16:40]

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第3回研修会報告

平成29年1月15日（日）に千葉市療育センターで第3回研修会を開催しました。今回は、脳血管障害をテーマに症例検討会を行いました。参加者は40名（会員37名、会員外3名）でした。その後、発表者と講師を交え、日頃の臨床の悩みを共有しあう情報交換会を行いました。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

研修会の概要

演題：「廃用症候群と陳旧性脳梗塞により重度の嚥下障害を呈した症例」

発表者：日扇会第一病院 河合 徹也 先生

概要：心不全後の廃用症候群と陳旧性脳梗塞により嚥下障害を呈し、臨床像と検査所見から障害された機能とリハビリテーション内容を対応させ治療を構築したこと、一定の改善を得た症例についてご報告いただきました。症例は80代男性、既往歴に心筋梗塞、狭心症、脳梗塞がありました。入院時所見は、経鼻胃管からの栄養投与、R S S T 2回/30秒、M W S T (変法)とろみ水分でプロフィール3。V F 検査所見からも、口腔相、咽頭相に障害を認めました。そこから、1つ1つの問題点に対応したプログラム(間接的嚥下機能練習や直接的嚥下機能練習)を立案。最終評価のV F では、咽頭への送り込みの改善や、舌骨の上前方への動きの改善など、口腔相・咽頭相で変化がみられました。7週間の治療の結果、全粥・ソフト食を20口程度/日まで経口摂取できるようになりました、退院後も訪問リハビリを継続し、現在は常食を3食経口摂取されていると発表されました。また、症例報告後、不顕性誤嚥や栄養面についての質疑応答がされました。

演題：「就労支援における回復期リハビリ病棟の役割」

発表者：新八千代病院 大掛 晃子 先生

概要：回復期リハビリテーションが就労支援に果たせる役割について、若年失語症例で復職を目標とした症例についてご報告いただきました。症例は40代男性、左被殼出血を呈し、神経心理学的所見としては、軽度流暢性タイプの失語症、軽度知的機能低下、右半側空間無視がみられました。仕事について、書類や精密機器の配達を担当しており、通勤は電車・バスを利用し片道2時間、職場には身体障害者雇用枠はありませんでした。早期の復職を強く希望されていましたが、症例の障害理解とその受容がリハビリと並行して段階的に進んだことで、会社側の復職困難であるという判断を受け入れることができました。就労支援において回復期リハビリ病棟の果たせる役割は、障害理解と受容に合わせての情報提供、うつなどの精神的問題への予防、退院後の支援施設との連携ではないかと発表していただきました。また、症例報告後の質疑応答では、検査の頻度や失語症者のパソコン操作について、意見交換が行われました。

助言者・講師：船橋市立リハビリテーション病院 田中 貴志 先生

演題：「脳卒中関連の基礎的な脳画像の診かた」

講義をはじめる前に助言者の立場から、河合先生には「常食3食経口摂取可能となった要因」に関して、大掛先生には「本人・家族・会社、それぞれに対するサポート」に関しての助言をいただきました。その後の講演では、「脳画像の見方(使い方)」として、脳画像は1つの情報(One of them)であり、イメージするためのアイテム。病変が変化していく時期か予後予測に役立つとのことでした。かつては局在論ですべて説明していましたが、現在は局在(中継かつ拠点)だけではなく、高速道路のようなネットワークの考え方方が重要といった「脳の局所機能とネットワーク理論」について、また「CVA御三家」として脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の特徴やパターンについて、わかりやすくご講演くださいました。講演後、多くの先生方から質問があり、時間いっぱい応答され、大変有益な機会となりました。



3. アンケート結果

研修会参加者：40名（会員：37名、会員外3名）

＜内、情報交換会参加者：16名（会員：14名、会員外2名）＞

1) ご感想をお聞かせください。

＜症例報告について＞ (回収数：33名)

とても良かった：23名、普通：10名、期待していた内容と異なった：0名、未記入：0名

具体的に：

- 似たような症例（失語）をみているので、参考になりました。また、嚥下の発表では「ペネトレーション・アスピレーションスケール」は初めて聞いたスケールだったので、勉強になりました。
- 失語患者様の“失敗例”と案内だったが、完成していて素晴らしいかったです。
- 意見交換がもっと出るとさらに面白いと思います。
- 説明時間と内容が丁寧でよかったです。
- 丁寧な発表でとても勉強になりました。一症例としつかり向き合い、関わっていくことの重要性を再認識しました。
- 嚥下・失語とテーマの異なるケースであり、共感できる部分が多かったです。
- 回復期では復職を目指す患者さんに対するケアはとても重要だと思うので、大変参考になりました。
- 復職についての症例は、具体的にわかつてよかったです。

- ・嚥下障害、就労支援と別のテーマで出題され、とても勉強になりました。
- ・自分が担当した患者様と類似していることもあり、参考になりました。
- ・今後の自身の臨床経験に大いに生かすことができる貴重な発表でした。
- ・嚥下の症例に関しては、既往の疾患からの症状の把握等を考える必要があることを学べた。失語の症例では、復職に向けてS Tがどのように動いたのか具体的に知れて良かった。
- ・自分の臨床にもつながる評価のみかたをあらためて学びました。参考にしていきたいと思います。
- ・復職のケースに携わる機会があり、興味深い内容だった。就労支援関連の社会資源を把握しておくことは確かに重要であり、日々の臨床で埋もれてしまっている（後回しにてしまっている）為、あらためてアンテナを高くはっておく必要性を感じた。
- ・特に就労支援については聞く機会が少ないのでよかったです。
- ・分かりやすく、聞かせていただけました。
- ・嚥下障害の症例の方の在宅支援の内容をもう少し知りたかった。
- ・具体例や分析評価がとてもされていたことで、イメージがしやすかったです。
- ・パワーポイント、説明ともに分かりやすかったです。
- ・日常悩むような症例を共有できてよかったです。

<講演について> (回収数： 33名)

とても良かった： 32名、普通： 1名、期待していた内容と異なった： 0名、未記入： 0名

具体的に：

- ・脳画像の診かたは、実際のところよくわからない所があるので、とても勉強になった。今後は、脳画像から症状に当たりをつけたり、医師との情報交換の一つとして活用していきたいです。
- ・実用的な部分を強調して話していただけてよかったです。
- ・画像の量が多く、機能と局在が詳しく理解できた。
- ・とてもわかりやすく、イメージしながら学ぶことが出来ました。明日からの臨床に早速活かしたいと思います。
- ・臨床にすぐに活かせる内容で分かりやすかったです。
- ・臨床とのつながりがわかって、わかりやすかったです。
- ・画像のよみかたと考えていたが、実際の臨床の立場からの脳画像の使い方についての内容だったので、期待していたものとはちがった。しかし、とても勉強になる内容であり、大変満足です。
- ・とても分かりやすく、復習になりました。
- ・症例のこともふまえたお話をして下さり、わかりやすさが増しました。余談もたくさんお話しして下さり、日常的になんとなく疑問に思っていたところを理解することができました。資料がカラーだとよかったです。
- ・脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、それぞれ整理しながら画像を学べた。画像は一人で勉強しづらいので、ありがたかったです。
- ・臨床にもつながる内容で非常に勉強になりました。
- ・普段の画像がなかなか分からず、症状に対してのつながりができずにいたが、今回改めて学ぶことができました。
- ・脳のネットワークやパターンがあるといった私がまだ知らない情報を知れてよかったです。今まで詳細に脳画像を

診ていなかったが、今後は脳画像と併せてリハビリを進めていきたいと思った。

- ・とても分かりやすかったので参考にしていきたいです。
- ・明日からの臨床に使える知識が満載で、とても良かった。
- ・話し方がとてもわかりやすかった。局在とネットワークについて再認識ができた。
- ・大事なポイントを抑えていただけたので、どこを押さえれば良いのか良く分かりました。今後の臨床に生かしていきたいです。
- ・水平断の高さの見分けとその高さの各部位の見方が分かりやすかった。どの高さでどこを見ればよいのかわかった。
- ・臨床に生かせる。
- ・小脳出血からくる高次脳機能障害に疑問を持っていたが、お話を聞いて理解ができた。
- ・苦手な分野ですが、とても分かりやすい内容でした。
- ・浮腫が引いた後の壊死している部分を画像で見る練習をしようと思います。ネットワーク理論を臨床で活かせると思いました。説明がとても分かりやすかったです。
- ・脳画像と症状、ネットワークが具体的で興味深かったです。

<情報交換会について> (回収数: 29名)

不参加: 24名 理由

- ・私用により
- ・予定があったため 4名
- ・用事があるため 4名
- ・時間の都合により 3名
- ・遠方のため 3名
- ・育児中のため

参加: 5名 とても良かった: 3名、普通: 1名、期待していた内容と異なった: 0名、未記入: 1名

具体的に: • 少人数で、質問がしやすかったです。

2) 今後の研修会や当会の活動について、ご意見等がありましたらお書きください。(複数回答可)

形式: 講演 22名、症例発表 12名、シンポジウム 5名、その他 0名

内容: 失語症 20名、高次脳機能障害 18名、摂食・嚥下障害 19名、音声・構音障害 13名、吃音 6名、言語発達障害 3名、聴覚障害 1名、その他 4名

具体的に: • 内容は何でもよい。

- ・特に小児リハについて、CP・ダウン症など
- ・地域包括ケアについて
- ・診療報酬改定について
- ・リハ栄養
- ・問題点に沿った具体的なプログラムの立て方を知りたい。
- ・吃音に携わっているSTによる具体的な講演や症例発表をして欲しい。

4. 学術局より<研修会を終えて>

今回の研修会は、症例検討会と情報交換会を行いました。発表者のお二人、講師の田中先生、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になりますよう願っております。

5. ※研修会の症例発表者募集※

研修会での症例発表者を募集しております。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。詳しくは当会ホームページにお問い合わせください。

6. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

7. 学術局員大大大募集<研修会の企画・運営を一緒に行いませんか?>

講師の先生と身近でお話や相談が出来ます。みんなで研修会を企画・運営をする事で、達成感や充実感を感じます。S Tとしての横のつながりも出来ますし、局員にも相談ができます。局員全員アットホームな雰囲気ですので、気兼ねなく参加できますよ。

あなたのご協力が必要です。ぜひぜひ、よろしくお願いします!!

◎◎◎生涯学習プログラム作業部会◎◎◎

平成28年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座千葉県版を実施

今年度の講座は、平成28年11月20日・23日に千葉市民会館で行いました。基礎講座は日本言語聴覚士協会が設定した6講座と当県士会が独自で企画した1講座（「言語聴覚士に求められる資質とは」小嶋 知幸先生）の合わせて7講座、専門講座は1講座（「臨床力をあげる摂食嚥下訓練」

柴本先生の講義風景

聖隸クリストファー大学 リハビリテーション学部言語聴覚学科 柴本 勇先生）の講義でした。なお、今年度も基礎講座の講師は千葉県内で活躍いる言語聴覚士の方々に担当していただきました。

柴本先生の講義は、摂食嚥下の基本的な知識から臨床に即役立つ具体的方法まで詳しく丁寧に解説していただきました。受講者からは「明日から試してみたくなる訓練法について講義して頂き臨床業務が楽しみになりました。」「VF、VEでの検査を行う意義、それがなくてもどのように評価、訓練を行っていくかを再確認でき検査に頼ってしまっている現状を振り返るきっかけとなりました。」など実践的で有意義であったとの感想が多く寄せられました。

基礎講座は各講座とも熱心な受講者が多く、また講師の先生も熱意のある丁寧な講義を展開していただきました。まだ経験の浅い言語聴覚士の皆様が、臨床の基礎的な知識や心構えを学ぶ場としては最適な研修会です。

参加者は千葉県内・県外合わせて76名でしたが、県外からの参加の者が例年に比べ多く、ほぼ半分の割合でした。（福岡県、兵庫県など遠方からの参加者もありました。）



来年度は平成29年11月19日（日）、23日（木・祝）基礎講座・専門講座を実施することが決定しています。なお、会場は千葉市民会館です。

また、認定言語聴覚士の受講資格（専門講座終了者）にも関わっております。是非、皆様の参加をお待ちしております。

（生涯プログラム作業部会長 齊藤 公人）

◇ 認知症専門職研修会報告 ◇

平成28年10月30日、11月26日27日の3日間にわたり、八千代リハビリテーション学院にて、認知症リハビリテーション専門職研修の応用コースが開催されました。

この研修は、千葉県作業療法士会を中心に3士会協同で企画・運営をしており、近年の認知症対策の一環である認知症コーディネーターの育成や、認知症に対応できる技術をもった認知症リハビリテーションリーダーの育成を目的としています。

この応用コースは、これまでに開催された基礎コースを修了した者を対象としており、企画当初は申し込みが少ないのでと心配していましたが、大勢のキャンセル待ちが出るほどの反響で、最終的に定員の50名を越える64名（PT22名、OT33名、ST9名）の方々にご参加いただきました。

講義内容は、認知症に関する関連法規、地域支援・生活支援の現状、認知症の嚥下障害、コミュニケーション技術、神経心理学的評価など多岐にわたり、グループワークによる事例検討も多く行われました。PT、OT、STの3職種によるグループワークは、それぞれの視点から熱気に満ちた意見交換が行われました。

アンケートでは、今後も基礎コース、応用コースを継続して認知症に対する知識を広めてほしいという声が多く、フォローアップ研修などで更に知識を深めたいという希望もありました。平成29年度についてはまだ検討中ですが、開催の際には県士会ホームページやメルマガなどで情報を公開していきますので、多数のご参加をお待ちしております。

今後さらに加速する高齢化に向けて、認知症の知識の向上、認知症リハビリテーションの発展は大きな課題となることと思います。この研修が皆様の臨床の一助となれば幸いです。

（東邦大学医療センター佐倉病院 治田 寛之）

◇ 千葉POS介護予防専門職育成研修会報告 ◇

介護予防の推進に資する専門職の育成を目指し、県の地域医療介護総合確保基金事業として、千葉県のPTおよびOT、ST各県士会が合同で企画をした研修会が、平成28年11月12日（土）に国際医療福祉大学成田保健医療学部で、同月19日（土）には木更津市市民総合福祉会館で、同年12月4日（日）には千葉県立保健医療大学で開催されました。参加者は全体で253名、STの参加者は37名でした。

我が国は高齢社会に突入し、医療費や介護保険費は増



加の一途を辿っています。国の財政負担を軽減させるためにも健康寿命を延ばすことは喫緊の課題となっており、その対策のひとつに地域包括ケアシステムがあります。地域包括ケアシステムとは、地域に暮らす住人が、それぞれの地域の特性に見合った多様な生活支援サービスを構築し利用できるシステムのことであり、そのような街づくりが現在推進されています。リハビリテーション専門職は、高齢者の社会参加を促し、活動量を向上させるということに長けており、地域包括ケアシステムが目指す介護予防事業に適した職種であると期待されているのです。



研修会では、地域包括ケアシステムを全国に先立って構築し、介護予防を実践、成果を残したリハビリテーション専門職である諸氏をお招きし、講演していただきました。講演内容は体験談に留まらず、大変示唆に富んだ内容でした。具体的には、これまでの介護保険サービスは「お世話型のサービス」であり、今後は「自立支援サービス」への転換が必要であるとお話がありました。また、「リハ職は期待されているのではない、試されているのだ。」など、介護予防事業において結果を求められていることの指摘もありました。さらに、千葉県のP O S士会それぞれが、介護予防においてどのようなことができるのかを提示されました。そのなかで、私たち言語聴覚士は「嚥下」「認知」「聴覚」そして失語症友の会や失語症会話パートナーなどの「地域活動」をキーワードに介護予防に取り組むことができるのではないかと話されていました。

まだまだ、介護予防においてS Tになにができるのかは未知数です。しかし、2025年度を目標にした地域づくりはすでに始まっています。専門家として地域にどのように関わることができるのかを、必死に模索しなければならないと感じました。

(地域リハビリテーション委員会 香川 哲)

◇ 小児言語委員会 研修会・情報交換会報告 ◇

小児言語委員会は、昨年11月3日、千葉リハビリテーションセンターにて講演会と情報交換会を開催致しました。講演は都立光明特別支援学校で自立活動の言語・コミュニケーションを担当されている森岡 典子先生から「教材・教具 コミュニケーションを豊かにするために」という内容でお話をいただきました。

参加者は、県内の病院、療育機関、保育所、訪問看護ステーションなど多岐に渡る職場から21名の参加がありました。教材は、日々子ども達が直接触れて影響していくもので、ひとつのAACとしての役割も大きく、現場で新たなものを必要とされたり、よりよいものへと工夫が求められることの多い分野です。当日は森岡先生が車いっぱいの教材や玩具を持ち込んで展示して下さり、参加者はそれを手にとり、直接に解説していただきながら学び、参考とする



ことができました。子ども達のそれぞれの視点に立って体感でき、想像力がかき立てられる経験となりました。

講演の中では、森岡先生の幅広いご経験から、より専門的な関わり方や分析についてお話ししていただき、新たな発想や視点を知る機会となりました。子ども達の感性や能力と合致した教材を見極め導入することで、長期的な関わりの中で、子ども達がどのように成長して生活が豊かに変化していくのか、事例を通してVTRとともに丁寧に紹介して下さいました。また、シンボルやサインを理解するための段階的な支援が理解できました。

森岡先生は、「教材」を「まず子ども達が笑顔になる、感動する『心が動く物』であることが重要」と教えて下さいました。子ども達一人ひとりが教材を通して周囲を動かす表現者となったり、共感するきっかけとなったり、そして本質的なコミュニケーションの動機となって継続される学習になるのだと思いました。



その後の情報交換会では、タブレットの有効なアプリの紹介や、「標準アクセシビティ機能」の活用方法等の条件に合わせた機器の設定方法、システムの活用が具体的な操作とともに習得できました。また、参加者それぞれが持参した教材・教具も、自由に閲覧しながら互いに情報を提供し、講師の森岡先生からも直接お話をうかがう時間もありました。

参加者のアンケートや情報交換会後にいただいた感想には、定期的かつ地域毎の開催の希望や、参加者同士が療育や診療にあたる条件を把握して顔がみえる関係となるまでの情報交換会の継続への期待がありました。今後の委員会で検討していきたいと思います。

なお、来年度は県内でも増加している児童デイサービスの調査からSTとの連携、ともに参加できる勉強会を予定しています。どうぞよろしくお願いします。

参加者のアンケート結果

参加者 20名

アンケート用紙回収は 14 件

| | ①内容 | ②時間 | ③場所 | ④講義・事例紹介 | ⑤教材展示 | ⑥情報交換会 |
|-----------|-----|-----|-----|----------|-------|--------|
| 満足 | 12 | 8 | 5 | 11 | 13 | 9 |
| やや満足 | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 |
| どちらともいえない | 1 | 3 | 7 | 0 | 0 | 1 |
| やや不満 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 不満 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | ⑦情報交換会の開催 |
|-----------|-----------|
| 今後も希望 | 14 |
| どちらともいえない | 0 |
| 希望なし | 0 |

| | ⑧委員の活動 |
|-----------|--------|
| 興味あり | 4 |
| どちらともいえない | 9 |
| 興味なし | 0 |

(小児言語委員会 藤田 誠)



施 設 紹 介



曙診療所通所リハビリテーションは、流山市の中ほど、東武野田線初石駅から徒歩約5分のところに、平成14年に開設されました。定員100名の大規模なデイケアセンターです。送迎バスを利用しての1日利用だけではなく、自力通所になりますが、リハのみの利用も可能です。

リハは、PT 4名、OT 3名、ST 1名で構成され、STは週2日半の勤務です。ST利用の方は、発症後数年たった失語の方が主でしたが、最近は在院・外来期間の短縮に伴い、発症後半年くらいからのご希望があるようになりました。また脳卒中の後遺症だけではなく、加齢に伴う認知機能の低下や、摂食嚥下障害、進行性疾患に伴う構音障害への対応なども増えています。STでは、発症からの時期や、障害の特性、生活歴などに合わせた個別訓練を中心に、可能な限り2～5人の集団訓練を組み入れるようにしています。生活期には多くの方との交流の機会が必要と考えるからですが、集団訓練による変化は予想以上です。受動的だった重度の方が一生懸命他の方に何かを伝えようとしたり、できることを教え合ったり、意見を言い合ったり、個別訓練への意欲もさらに高まります。何よりどなたも表情が明るくなります。ことばの障害をお持ちだと、訓練時間外に他の利用者さんとの会話の輪に入れないことも多いので、市内の失語症会話パートナーさんの協力で会話の仲立ちや相手をしていただき、会話の機会の確保に努めています。

印西市立子ども発達センター (印西市) . 渡邊 裕貴

全国「住みよさランキング」5年連続1位の印西市…利根川と印旛沼に囲まれた自然豊かな人口約9万7千人の市です。現在もニュータウンの開発が進んでいて、人口、世帯数ともに増加傾向が続いています。それに伴って、子ども発達センターの相談件数もここ数年増加しています。

S Tはセンターでの相談、個別指導、グループ療育、保育園・幼稚園の巡回相談、摂食指導の業務の他、保健センターでの各種健診のことばの相談、小学校の巡回相談などを常勤2名で対応しています。近年の相談件数の増加に伴い、ケースの受け入れや指導回数など十分に確保できず、近隣の医療機関などにも紹介をしているのが現状で、今後どう対応していくかが喫緊の課題です。

しかしながら、子ども発達センターには保健師、看護師、保育士、臨床心理士、小児神経科医、PT、OT、STなど専門職が在席し、専門職同士のコミュニケーションがとれており、また、保健センターや保育園幼稚園、教育委員会等の他機関とも連携が図られているため、指導や療育を受け持っているお子さんの家庭や集団生活、就学までをフォローできる体制が取れるところは強みだと思っています。

今後もお子さんと保護者のために、連携を大切にし、市の相談機関としての役割を担っていきたいと思っております。

臨床こぼれ話

★★★ 私が進路・就業で感じたこと ★★★

旭神経内科リハビリテーション病院
丸林 実季

春は卒業や入学、就職、転職等される方もいらっしゃると思いますが、多くの方が人生の節目を迎える季節です。今回、『臨床こぼれ話』への寄稿の機会をいただきましたので、私自身の進路や就職を振り返りました。

私が某大学の言語聴覚学科に入学したのは2007年です。現在では『言語聴覚士』という仕事も連続ドラマにも取り上げられ、知名度が上がっています。しかし、私が進学を決めた時点では、私の周囲でその仕事を知っているのは看護師をしていた親戚1人だけでした。私自身も「食べること、話すことのリハビリ」くらいしか知りませんでした。大学に入学した当時、私の耳に直接入ることはませんでしたが、「よくわからない仕事に就くために4年も大学に行くのか」「浪人しても、違う大学に入ったほうがいいんじゃないかな」と、親戚や周囲の人たちが話していた事を後々両親から聞かされました。このように、親戚は私の進路を特に心配していたようです。

状況が変わり始めたのは、大学4年生の頃からです。元々パーキンソン病を患っていた祖父が、誤嚥性肺炎で入院することになり、言語聴覚士のリハビリを受け始めたことがきっかけでした。祖母や家族が胃瘻や経管栄養を望まなかつたため、何とか経口摂取ができるよう、毎日言語聴覚士と訓練をしていました。おかげで祖父は、3食経口摂取が可能となりました。身体的なこともあります、自宅に帰ることはできませんでした。しかし、今後も食事の時間を共有することができるという点では、祖母や家族はとても喜んでいました。実際にリハビリを受けたこともあります、私の目指している仕事は『世間の役に立つ仕事』と初めて認めてもらうことができました。

言語聴覚士として働き始めてからは、また違う悩みがありました。仕事をしている時間帯でも、家族からメールで仕事や家事とは関係ない連絡が来ることでした。父にはそんなことをしないのに、私にはする。スーツで都会を忙しく走り回る仕事ではなく、制服を着る技術職だから、未だに心配させているのだろうかと思ったこともあります。

言語聴覚士4年目の冬、祖母が脳出血を発症し、当院でリハビリを受けることになりました。私が直接祖母のリハビリに関わることはしませんでしたが、同じ敷地内で仕事をしていることもあります、図らずも自身の仕事を直接見てもらう機会となりました。その頃には以前のようにメールが入ることはもうありませんでしたが、家族から「今日、病院で見たよ、忙しそうだったね」と言われると、私の仕事をこうようやく分かってくれたかなと思いました。

現在、弟が言語聴覚士を目指し、養成校に通っています。弟の考えもあるかと思いますが、私自身としては数年間の頑張りを見て認めてくれた結果なのかなと考えています。また、両親や親戚が弟の進学を喜んで、祝ってくれたことについても数年間の思いが報われたような気がしています。

言語聴覚士の仕事は今後高齢化が進むにつれ、認知症や嚥下障害等へのニードは益々高まってくると考えますが、認知度は理学療法士や作業療法士に比べるとまだまだ低いと感じます。社会一般の認知度が低いために、周囲から理解されず悩む方も多いのではないでしょうか。今後そういう方が少しでも減るよう、日々の仕事を積み重ねながら努力を続け、言語聴覚士の認知度アップへ貢献していきたいと思います。

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎○○聴覚障害委員会より○○○

三三 きこえに関するひとくちコラム 三三

千葉県手話言語等の普及の促進に関する条例について

今回は、平成28年6月に成立・施行された『千葉県手話言語等の普及の促進に関する条例』をご紹介します。

この条例は手話を言語として明確に位置付けるとともに、手話等の普及の促進を図り、県民の聴覚障害者の意思疎通のための手段に対する理解を深めるために制定されました。施策として手話通訳者や要約筆記者等の派遣体制の整備・充実に努めています。

千葉県が他県と異なる点は、『手話等』の定義として、「手話、要約筆記、触手話、指点字、筆談その他の聴覚障害者が日常生活又は社会生活を営む上で使用する意思疎通のための手段をいう」ことです。他県では手話以外の手段については触れられていませんが、本県においてはこれらの手段についても理解・普及を促しています。

詳細は、<https://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/shuwajourei/>（千葉県 HP）をご参照ください。

全国でこの条例が成立しているのは、9県56市8町で計73の自治体となっています（平成29年1月18日現在）。千葉県では県レベルで成立する前に、習志野市が独自に開始しました。

～聴覚障害委員会～



◎○◎職能部より◎○◎

ワーク＆ライフバランスコラム ～仕事と○○の両立～

私は回復期病棟で、日々患者様のリハビリテーションや退院支援に努めています。まだ若輩者ではありますが、その経験の中で感じていることは、回復期病棟が目指す在宅復帰には、もちろん患者様自身の機能も関わりますが、ご家族の意思も大きく影響するということです。

老々介護の二人暮らし、奥様、あるいは旦那様に重度の障害が残った場合でも、「また一緒に家で暮らしたい」、とおっしゃる方はしばしばいらっしゃいます。良いこと、辛いことなど、様々な出来事があったこれまでの夫婦生活があったからこそ、最後まで一緒に過ごしたいという気持ちや介護の決心が生まれるのだろうと思います。そんなご家族や患者様のために、「障害と付き合っていく、新しい退院後の生活」がイメージできるよう退院支援を行わなければなりません。

さて、自分の家庭はというと…。数年前に結婚しましたが、交際期間が長かったこともあります。最近は「ありがとう」や「ごめんね」を言わないようになってきました。一緒にいることや仕事の帰りを待ってくれていることが当たり前になっているように思います。仕事では、任されることも少しづつ増え、後輩も増えてきました。お陰で仕事がより楽しく感じられるようになりましたが、その反面、残業も増えてきました。

この仕事は患者様のために力になれる、大変にやりがいのあるものです。治療や回復期病棟の退院支援、チーム医療についてなど、勉強しなければならないことがあります。しかし、時には、他に大切なものを見失わないように振り返ることも大切だと思います。ライフ・ワークバランス。このコラムをきっかけに、帰宅時間が遅くなり疲れていても、家族に感謝の言葉を伝える努力をしていきたいと思います。

将来、介護してもらえるように（笑）…。

袖ヶ浦さつき台病院
長尾 圭祐

◎◎◎災害リハビリテーション委員会より◎◎◎

「POS 合同災害対策委員会主催研修会」

災害リハビリテーション委員会 栗林 真里

12月10日に千葉県 PT・OT・ST 合同災害対策委員会主催による災害リハビリテーション研修会「リハ職として動けますか？あなたの地域で災害が起こったら（入門編）」が開催されました。災害リハビリテーションに興味のある県内の PT・OT・ST 40名（うち、ST 6名）の皆さんのが参加されました。今回は入門編ということで、ST 原田 浩美 先生（国際医療福祉大学 成田保健医療学部）による基本的な災害リハビリテーションの概論から始まり、OT 今野 和成 先生（国保旭中央病院）・PT 岐玉 美香 先生（国保君津中央病院）からは東日本大震災や熊本地震での実体験を中心に、具体的な支援の方法やその際の心構えについて御講義頂きました。



今回の研修会を通じて、平時から行なえないことは非常時に行なうことは困難であり、災害の備えとして顔の見える関係作りや自身の役割を確認することが必要であると感じました。そのため、今後の課題として日頃から地域社会に貢献することや他のリハ職や行政と繋がりを持ち、支援体制の構築を図ることが必要となります。また、そのようなメンバーと情報を共有することや災害発生時の対応について繰り返しシミュレーションすることが、非常時の際、より円滑に支援を行なうための鍵となる事を改めて知ることが出来ました。



◎◎◎地域リハビリテーション委員会より◎◎◎



地域リハ委員会では、今後県内ＳＴによる地域リハビリテーションの実践例をレポートしていきます。初回は、富津市での取り組みです。

前述の研修報告にもあったとおり、現在各地域が独自性をもって介護予防に取り組んでいます。介護予防では各地域の特徴やニーズを拾い上げるため、地域ケア会議や自主化グループなどの個別性の高い事業が推進されています。

介護予防・日常生活支援総合事業では、リハビリテーションの専門家である理学療法士や作業療法士と同様に、ＳＴも地域リハビリテーション活動支援事業として地域包括支援センターと連携しながら介護予防の取組を総合的に支援することとしています。しかしながら、ＳＴの介護予防とはどういったものなのか、多くのＳＴが頭を悩ませているのではないかでしょうか。

今年度から富津市が健康体操を中心とした自主グループを立ち上げたということで、地域リハ委員として協力させていただく機会を得ましたので、その体験をお伝えします。

自主グループの対象は富津市内の元気高齢者20名ほど。会場では1回／週、1時間ほどの健康体操が実践されていました。お伺いしたタイミングでお時間をいただき、「嚥下障害と肺炎」について話しをさせていただきました。馴染みが薄いと思われた嚥下障害というテーマも肺炎というキーワードを付け加えたことで、参加者の反応は上々。肺炎は元気高齢者にとっても関心のあるテーマだったようです。ＭＰＴやＲＳＳＴを全体で実施し、リスクがあると思われた方にはその場で直接指導をさせていただきました。今回の体験をもとにＳＴが行う介護予防とは、医療や介護現場の実際を伝え、専門的立ち位置から予防の重要性について啓発することや介護予備群の早期発見ではないかと感じました。

また、私は「このような自主グループが各所にあれば、自分の担当患者様の活動・参加に結び付けることができるのではないか。」とも感じました。自主グループは医療を卒業した虚弱高齢者の孤立を防ぎ、廃用性の認知機能低下や運動機能低下の予防につながると思われます。病院や施設といった特殊な環境から、日常に近い地域へ帰還させるためには、われわれはさらに地域にあるインフォーマルな資源を知る必要があると思います。つまり、地域リハビリテーションとは、人のネットワークを通じて地域資源情報を把握すること、そしてその資源を共有の財産にしていくという活動といえるのではないかでしょうか。ＳＴが介護予防にどのように関わるのかの答えにはなっていないかもしれません、地域の様々な資源や情報を必要とする患者様に伝えられるよう、今後も積極的に地域の輪に飛び込んでいきたいと思います。

玄々堂君津病院 香川 哲

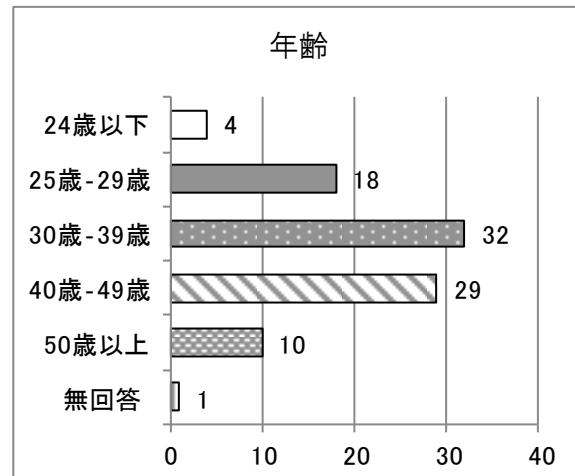
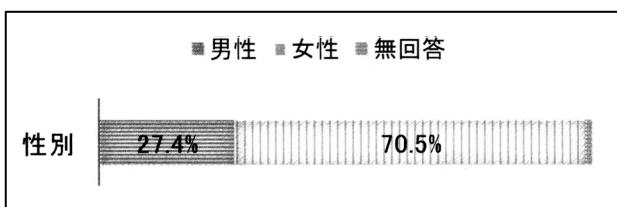
◇ 職場環境に関する実態調査（ダイジェスト版）◇

職能部 金子 義信

当会では 2001 年度、2010 年度に県内の言語聴覚士（以下 S T）の職務状況を把握して当会としての活動指針を得るために実態調査を行いました。少子高齢化社会にますます拍車がかかり、医療・福祉・教育の制度や環境のめまぐるしい変化について、皆様の職場環境や働き方も大きな影響を受けているのではないかと思われます。今回は実施した調査の中からいくつか結果をご報告いたします。（回答数 94 件）

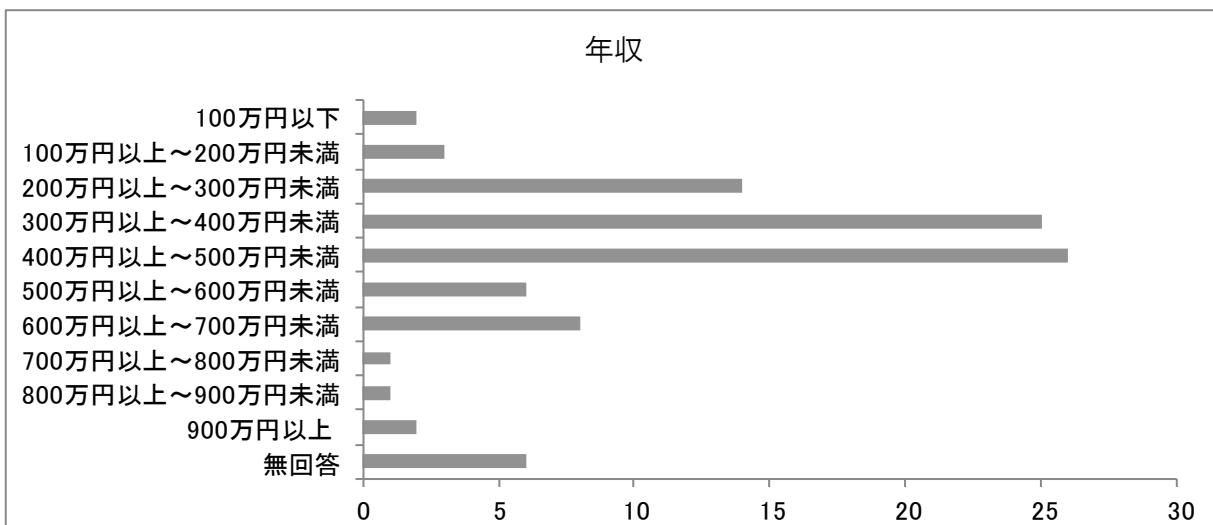
【年齢・性別について】

男性は増加傾向にあると思われますが、今回ご回答いただいたうちの約 7 割が女性でした。年齢構成としては 30 代・40 代を中心幅広い世代の方にご回答いただきました。



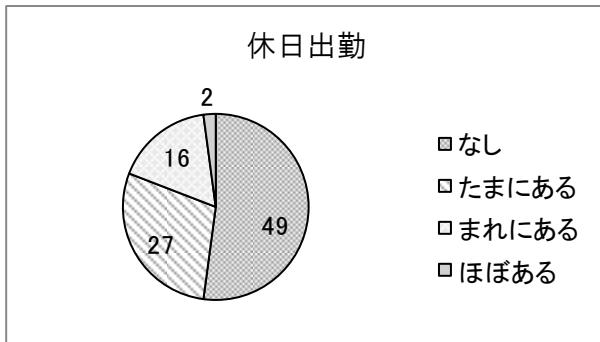
【年収について】

300 万円から 500 万円という回答が中心でしたが、600 万円以上の回答もみられました。常勤、非常勤の違い、年齢、経験年数や職場の勤続年数によると思われますが、ある程度安定した収入を得られる環境もあることがわかりました。



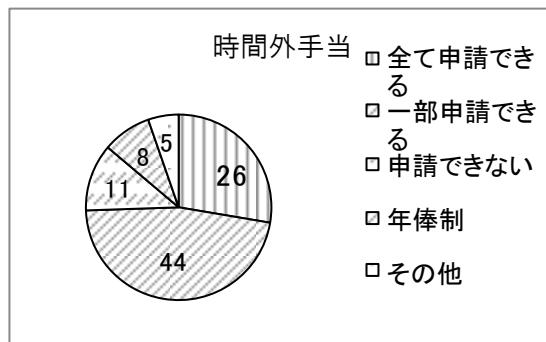
【休日出勤の有無について】

休日出勤に関しては、約半数の方は何らかの形で休日出勤をしていると回答しました。



【時間外手当について】

時間外手当については7割以上の方がすべて若しくは一部申請しています。



【子育て・介護支援について】

産前産後休業制度、育児休業制度、育児や介護による時短勤務制度についてはそれぞれ半数以上の方が「利用できる」と回答しましたが、そのための人員の補充は「すぐにはできない」と回答された方が7割以上で、残るスタッフへの負担増加や、制度を利用することに対する心苦しさもあるのではないかと考えられました。また保育施設に関しては、約半数の方が「ある」と回答していました。また、「施設内にはあるものの、S Tは利用できない」という回答も1割弱ありました。

【自由記述での職場環境に関する不満な点や問題点について】

1. 職場環境

- ・言語訓練をする部屋がない（少ない）
- ・休憩するスペースがない

2. 人手不足

- ・人手不足で、募集しても人がこない
- ・子育て中のスタッフが多くフォローが不十分

3. 業務量の多さ

- ・本来の勤務時間はすべて臨床業務で、書類などは残業でやらなければならない
- ・会議が多い
- ・ノルマが毎日 21 単位という点が、たまに辛く感じてしまう

5. 教育、研修について

- ・自分の臨床をやりながら（必要単位を取得しながら）若手の教育・研修を行うことが難しい。
- ・自立的に学習しない後輩の面倒を見るべきか
- ・病院内で中堅以上のスタッフの生涯学習が難しい

詳細な結果や、前回までの調査結果との比較などは、後日ご報告いたします。より正確で幅広い情報をまとめるためには会員のみなさまの情報が不可欠です。今後とも、ご協力よろしくお願ひいたします。

◇ 事務局より ◇

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらっしゃいましたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ~ 変更届についてのお願い ~

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ (敬称略) 会員数: 正会員 429名・準会員 21名・賛助会員: 6団体

(平成29年3月5日 理事会承認分まで)

| | |
|--------------------------|--------------------------|
| 齊藤 あかり (千葉・柏リハビリテーション病院) | 丸林 実季 (旭神経内科リハビリテーション病院) |
| 大掛 晃子 (新八千代病院) | 綾野 昭子 (千葉市障害者福祉センター) |
| 高梨 智穂子 (おゆみの中央病院) | 城間 将江 (国際医療福祉大学) |
| 白井 美実 (成田富里徳洲会病院) | 今井 隆純 (けやきトータルクリニック) |
| 伊藤 明子 (船橋市立リハビリテーション病院) | 河合 徹也 (日扇会第一病院) |
| 森 一浩 (東京さくら病院) | 常泉 暢子 (ケアセンター習志野) |
| 堀井 麻美 (船橋市立リハビリテーション病院) | |

(届出順)

年会費納入のお願い

*当会の年会費は前納制となっております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

正会員 3500円 準会員 3000円

賛助会員 1口5000円 (個人1口以上、団体2口以上でお願いします)

未納分について

*本年度は未納ゼロをめざします。平成26年度・27年度・28年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、未納分を合計した金額にてお早めにお支払いください。

本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。(例: 正会員の場合: 3500円 × 2 = 7000円)

納入済かどうかご不明な場合や、その他年会費に関するご質問がございましたら、県士会メールもしくは下記までご連絡下さい。

◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

(記号番号) 00120-6-39932

(加入者名) 一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

(銀行名) ゆうちょ銀行 (金融機関コード) 9900 (店番) 019

(店名) ○一九 (ゼロイチキュウ店)

(預金種目) 当座 (口座番号) 0039932

(受取人名) イッパンシャダンホウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落し

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

《年会費に関するお問合せ先》

東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部

治田（はるた） 寛之 043-462-8811（代）

ホームページ上「会員専用ページ」のパスワード変更のお知らせ

セキュリティ強化のため会員専用ページのパスワードを変更することにいたしました。新しいパスワードは「cast5」になります。新パスワードでのログインは、このニュースが皆様のお手元に届く3月27日より行えます。ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いします。

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成28年度 理事会

《第8回》日時：2016年10月23日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事8名）、宇野（監事1名）、小松（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュースNo.52について
・口腔機能管理支援事業連携会議について ・千葉POS介護予防専門職育成研修について ・基礎講座講師養成研修会について ・生涯学習プログラムについて ・都道府県士会会長会議について ・関東圏の都県士会会长副会長会議について ・後援依頼 ・災害リハ研修会について ・平成28年度第3回研修会案内状について ・高次脳機能障害支援ネットワーク会議について ・平成29年度予算について ・総会資料について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・医療保険実態調査アンケートについて ・吃音委員会発足について ・リハ公開講座終了後について

《第9回》日時：2016年11月27日（日）13時00分～16時15分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事8名）、宮下（監事1名）、今泉（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・支払い及び来年度予算について ・秋季都道府県士会会長会議について ・関東圏都県言語聴覚士会について ・失語症者向け意思疎通支援者養成研修会テキスト説明会について ・小児言語委員会情報交換会報告 ・年賀状について ・後援依頼 ・平成28年度第3回研修会について ・平成29年度第1回研修会について ・千葉県摂食嚥下ネットワークについて

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・年会費未納への対策案について ・ニュースNo52発送部数及び返送部数について

《第10回》日時：2016年12月18日（日）13時00分～16時00分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、平山、（理事7名）、宇野（監事1名）、小松（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・総会資料について ・POS合同災害対策委員会研修会報告 ・ニュースNo53構成案について ・介護予防の推進に資する専門職育成研修会報告 ・年賀状について ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業について ・千葉県立保健医療大学のアンケートについて ・会員情報の確認について ・学術局主催研修会の開催について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・千葉県東葛南部リハビリテーション連絡協議会出席について

《第11回》日時：2017年1月29日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事9名）、宮下（監事1名）、井上（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・総会資料について ・ちば地域リハ・パートナーについて ・ニュースNo53構成案について ・平成28年度第3回研修会について ・平成29年度第1回研修会について ・千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修会実施報告について ・問い合わせに対する返信について ・失語症意思疎通支援事業作業部会（案）について ・摂食嚥下リハビリテーションリーフレットについて ・千葉県摂食嚥下ネットワークについて ・後援依頼について ・会計について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第12回》日時：2017年2月12日（日）13時00分～時分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、小野、酒井、治田、宮崎（理事6名）、宇野（監事1名）、（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・総会資料について ・研修会掲載依頼方法について ・吃音症専門委員会（案）設立について ・千葉POS理事会報告 ・地域リハ委員会議報告 ・平成29年度第1回研修会について ・生活期リハビリテーション実務者研修会収支報告 ・摂食嚥下関連リーフレットについて

2. 報告事項：・郵便物回覧

◆ 平成28年度 学術局会議

《第4回》日時：2016年11月27日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花サークル室A

出席者：酒井、志賀、嶋田、杉崎、関口、露崎

・第3回研修会タイムスケジュールについて ・今年度反省について ・次年度計画作成について

《第5回》日時：2017年1月15日（日）16時00分～17時00分 場所：千葉市療育センターふれあいの家

出席者：小野、酒井、志賀、嶋田、関口、露崎

・第3回研修会の反省 ・次年度計画について ・次年度局員について

◆ 平成28年度 広報部会議

《第1回》日時：2016年4月11日（月）19時00分～20時00分 場所：千葉県東葛飾障害者相談センター

出席者：根岸、宮崎

- ・ホームページ管理システムの検討

『第2回』日時：2016年5月29日（日）11時15分～12時00分 場所：千葉市文化センター 9階会議室
出席者：片山、加藤、根岸、宮阪、宮崎

- ・役割分担 ・今年度の計画 ・リーフレットの配付

『第3回』日時：2016年6月11日（日）13時00分～16時00分 場所：流山中央病院
出席者：片山、加藤、門松、根岸、宮阪、宮崎

- ・Q&Aページの作成 ・Twitterの活用 ・ホームページ全体の見直し ・来年度の予算案

『第4回』日時：2017年2月11日（土）13時00分～15時00分 場所：流山中央病院
出席者：片山、加藤、根岸、宮崎

- ・来年度の活動計画 ・リーフレットの配付

◆ 平成28年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修会実行委員会

『第7回』日時：2016年10月6日（火）19時00分～20時30分 場所：船橋市保健福祉センター小会議室
出席者：小野、勝又

- ・今年度研修会について ・役割分担について

『第8回』日時：2017年1月19日（木）19時00分～21時00分 場所：船橋市保健福祉センター小会議室
出席者：小野、勝又

- ・研修会の反省 ・事例の全国への提出について ・来年度の取り組みについて

◆ 平成28年度 職能部会議

『第2回』日時：2016年10月29日（土）10時00分～12時00分 場所：黒砂公民館

出席者：渡邊、小杉、徳山、宮崎、金子

欠席者：宮内、高田

- ・職場環境実態調査について ・「ワーク＆ライフバランスコラム」について

『第3回』日時：2017年1月28日（土）10時00分～12時00分 場所：黒砂公民館

出席者：小杉、金子

欠席者：渡邊、宮内、高田、徳山、宮崎

- ・平成28年度活動振り返り ・職場環境実態調査ニュース原稿について ・平成29年度活動方針の検討

◆ 平成28年度 小児言語委員会

『第3回』日時：2016年11月3日（木）17時00分～18時00分 場所：千葉リハビリテーションセンター

出席者：藤田、廣瀬、木村、金子

- ・平成28年度情報交換会の反省 ・平成29年度活動方針の検討

『第2回』日時：2016年12月11日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉リハビリテーションセンター

出席者：藤田、廣瀬、木村、野宮、金子

- ・平成28年度活動の振り返り ・平成29年度活動方針の検討

◆ 平成28年度 摂食嚥下障害委員会

『第3回』日時：2016年12月18日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：長良、渡邊、酒井 オブザーバー：池田

- ・摂食嚥下関連リーフレットについて ・次年度計画について ・その他

◆ 平成28年度 災害リハビリテーション委員会

《第2回》日時：2016年9月11日（日）9時30分～11時00分 場所：マクドナルド 常盤平店

出席者：栗林、平山、渡辺

・ボランティア研修について ・9都県士合同防災訓練について ・ボランティア研修アンケートについて

《第3回》日時：2017年1月22日（日）9時30分～11時00分 場所：マクドナルド 常盤平店

出席者：栗林、野口、平山

・今後のC-RAT、POS合同災害対策会議の活動について ・ビブスについて ・次年度計画について

◆ 平成28年度 聴覚障害委員会

《第3回》日時：2016年11月6日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉県こども病院

出席者：高橋、猪野、黒谷、大壺、石渡

・研修会について ・コラムについて

《第4回》日時：2016年11月13日（日）16時00分～17時00分 場所：千葉県こども病院

出席者：高橋、猪野、黒谷、大壺、石渡

・研修会の振り返り ・県士会ニュースについて

《第5回》日時：2017年1月15日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花

出席者：高橋、猪野、黒谷、大壺、石渡

・今年度の事業報告 ・来年度の活動について

◆ 平成28年度 介護保険委員会

《第6回》日時：2017年1月14日（水）19時00分～21時00分 場所：サイゼリア アクロスモール新鎌

ヶ谷店

出席者：松本、牛山、木村、末藤、山崎、小野

・今年度会計収支報告及び来年度案について ・活動報告について ・平成29年度活動計画案について ・平成29年度委員について

◆ 平成28年度 地域リハビリテーション委員会

《第3回》日時：2016年12月18日（日）10時00分～12時00分 場所：黒砂公民館

出席者：平澤、香川、藤井、岩本

・今年度の活動の振り返り ・来年度の活動計画、委員について

◆ 平成28年度 千葉POS連携推進会議 理事会

《第2回》日時：2017年1月30日（木）19時00分～21時15分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：吉田、岩本、平澤、藤井 千葉県理学療法士会6名 千葉県作業療法士会6名

・千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修について ・人材バンクについて ・理事会の定例化について ・会計について ・来年度の活動について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

ご協力
お願いします

日本失語症協議会 応援セール

エスコアールの失語症・成人関連製品をご注文の際に日本失語症協議会(03-5335-9756)経由でお申し込みいただくと、特別割引価格でお求めいただけます(個人・法人問わず)。

※請求書等の書類・代金の支払はエスコアールとの直接取引となります。

お問合せ先 日本失語症協議会(03-5335-9756) エスコアール(0438-30-3090)



言語訓練等にお使いいただけるアプリが新登場! ActVoice Smart

イラスト100枚付き
ダウンロード
無料

言語聴覚士による対面した失語症者への呼称訓練等の言語訓練場面や、自習場面で役に立つアプリです。名詞カードの他に、環境音カードや歌カードが使用できます。

簡単操作

自習用
教材にも

録音
再生機能

オリジナル
カード作成

持ち運び
便利

音声認識
機能*

*音声認識機能はAndroid版のみ動作いたします。

App Store
からダウンロード

Google Play
で手に入れよう



10インチ以上のタブレットを推奨します。
7インチ以下のタブレットでは画面表示が一部崩れることができます。

ActVoicePen (音声ペン)

アクトボイスペン

自作用シール100枚

ACアダプター付

9,720円

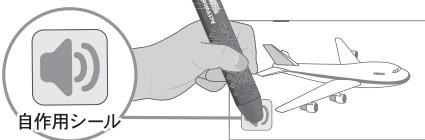
速度変更

録音

音量調節

外部接続

ひこうき



New

日用品・屋内設備 音シール

音声ペン対応

音シール A5判
2シート(シール100枚) 1,296円

失語症の言語練習等で、音シールをご家庭の身近な物品に貼り付けて使用します。貼り付けたシールに音声ペンでタッチするとその名称が発声されます。テレビ、冷蔵庫等の名称のシール90枚と自作用シール10枚の合計100枚のシールです。

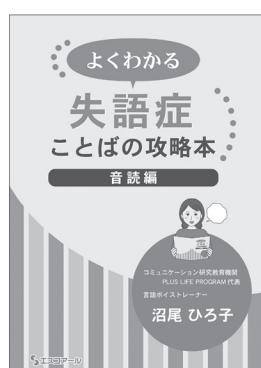
※日用品・屋内設備 音シールのみでは、音声再生できません。



よくわかる失語症ことばの攻略本

著: 沼尾ひろ子

自信をもって会話がしたい・はっきりした言葉で話したいあなたへ



New 音読編 音声ペン対応 B5判 92頁 1,404円

音声ペンでポイストレーナー
沼尾ひろ子による
音声ガイドが再生可能!

楽しく音読の練習をするための文章テキストです。文字や文章を読んで、意味の理解をし、相手に伝わる声の出し方や表情豊かな表現を練習することができます。声を出して文章を読んでいくうちに滑舌の基礎が自然に身につき、さらに別売の音声ペンを用いると正しい読み方を音声ガイドで確認できます。

ことば体操編 B5判 98頁 1,620円



呼吸体操や変顔体操等、さまざまな言葉の体操をわかりやすく説明しています。失語症以外の、言葉に自信のない方にも取り入れていただける体操です。

New

RPMで自閉症を理解する

著: ソマ・ムコバディエイ 訳: 鈴木麻子 片瀬ケイ
B5判 200頁 2,160円

ご家族と重度自閉症児を応援する研究者・教育関係者・学生必読! 自閉症児個々人の持つ、運動・視覚・聴覚などの刺激からなる固有な行動特性をとらえてその子供に合った教育を進め、人生に不可欠であるコミュニケーション能力を高める為のステップアップの方法が丁寧に書かれています。



株式会社エスコアール

<http://escor.co.jp>

〒292-0825 千葉県木更津市畠畠 2-36-3

TEL:0438-30-3090

FAX:0438-30-3091



●上記の商品はホームページから送料無料でお求めいただけます。 ●価格は消費税込です。 ●内容や発売時期は予告なく変更になる場合があります。



編集後記

いつも年度末は忙しいですね。退職していく人の送別会やら新入職の受け入れ準備やらと、別れの寂しさがあったり新しい出会いへのワクワクがあったりと、心が浮いたり沈んだり大変です。

来年の今頃は、医療保険・介護保険の同時改定が待っているのでもっと大変だろうなあと、1年先の事まで考えてしまい、さらに深みにはまってく今日この頃ですが、私の座右の銘は詩人相田みつさんの詩の中にある「むりをしないで なまけない」という言葉です。さあ、今日も無理せずがんばろう！。

編集部 平山

発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田 浩滋

編集人:編集部 平山 淳一

事務局:〒263-0042 千葉市稻毛区黒砂2-6-15 メゾンK102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chiba-st.com/> 会員専用パスワード:cast5

印刷:社会就労センター はばたき職業センター